

Ⅲ-10 [資料] 京都府立大学生による 文化遺産活用の取り組み

京都府立大学文学部考古学研究室

巨大な石室と多彩な遺物が姿を現し、多くの耳目を集めた湯舟坂2号墳の発掘から約40年、地元の須田区では、定期的な草刈り、湯舟坂古代の丘公園の整備、また毎年の古墳慰霊祭の実施など、まさに「地域の力」で湯舟坂2号墳を守り伝えてきた。しかし、遺物は地元を離れ、時の経過とともに発掘当時の記憶は埋もれ、地域と湯舟坂2号墳の距離は大きくあいてしまった。

京都府立大学では、再び埋もれつつあるこの湯舟坂2号墳を、改めて掘り起こし、地域に返す作業を、学生を中心に続けてきた(本書Ⅲ-9、Ⅲ-11参照)。とりわけ、ポストカードにはじまる文化遺産モチーフのグッズ制作は、既に多くの蓄積があり、当プロジェクトの一つの核となっている。これらはすべて学生が主体となって内容やデザインを考案しており、成果報告会等の各イベントで活用している。本稿はこの約4年の間に作られたグッズの成果をまとめたものであり、グッズの内容だけでなく、制作を担当した学生のこだわりも記載し、そのグッズの狙いが見えるようにしている。また、学生主体で進めてきた取り組みのもう一つの柱ともいえる高龍小学校との取り組みの記録もあわせて記載した。出前授業や古墳ツアーを企画・運営するにあたっては、子どもたちがより理解しやすいよう、言葉や方法を何度も吟味した。さまざまな苦労があったものの、地元の小学生がふるさとの文化遺産の発信者となったことは当プロジェクトの大きな成果である。

本稿でまとめた成果は、学生が、イラストレーターなどのソフトに悪戦苦闘したり、子どもたちに向けた文化遺産の「翻訳」に頭を悩ませたりした、試行錯誤の跡でもある。これらの取り組みが、文化遺産の地域資源化という課題に対する正しい答えとなっているかは、まだわからないが、今後もこの須田という地でその答えを模索していけば、きっと湯舟坂2号墳が本当の意味で「地域の宝もの」になると信じている。

(吉永健人)

資料1

グッズ名：湯舟坂オリジナルポストカード（全6種）

制作年：2021年度（第1弾）・2022年度（第2弾）

制作数：各1,000部

内容：栗山雅夫氏（奈良文化財研究所）による高精細写真を活用したポストカード。2021年度に第1弾として全3種（湯舟坂発掘40周年記念）、2022年度に第2弾として全3種、計6種を制作。

表①：環頭大刀を中央に配置

表②：刀剣類を右下に配置

表③：環頭部分（トレース）を分解して帯状に配置

裏①：湯舟坂2号墳出土遺物の集合

裏②：環頭大刀の環頭部分

裏③：湯舟坂2号墳石室（全景） ※裏①～③が第1弾

裏④：環頭大刀・圭頭大刀の刀身部分（等倍）

裏⑤：銅鏡単体

裏⑥：湯舟坂2号墳石室（奥壁から） ※裏④～⑥が第2弾

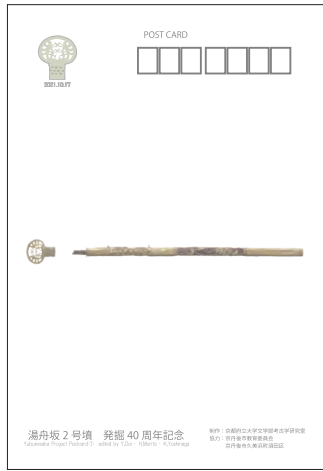
こだわり：表面（宛名書き面）の切手貼付部分に、環頭大刀の環頭部分をアイコン風にデジタルトレースしたものを配置。表③はそれを龍と透彫部分の三日月状模様で分解して帯状に配置。裏面の第1弾は湯舟坂2号墳を象徴するような写真、第2弾は当年度開催のACTR成果報告会のテーマに合わせた写真を選択。

活用事例：ACTR成果報告会アンケート回答への返礼

高龍小学校生徒へ配布

須田区全戸へ配布 等

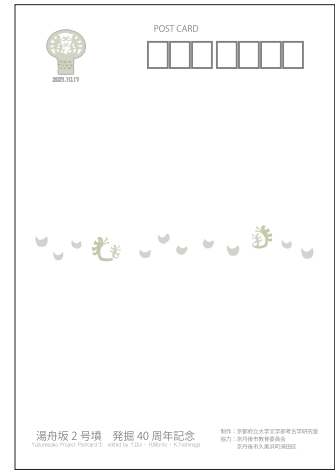
（吉永健人）



表①



表②



表③



裏①(第1弾)



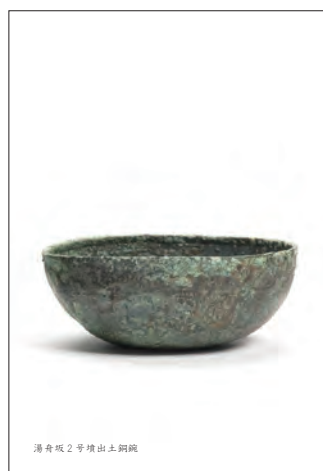
裏②(第1弾)



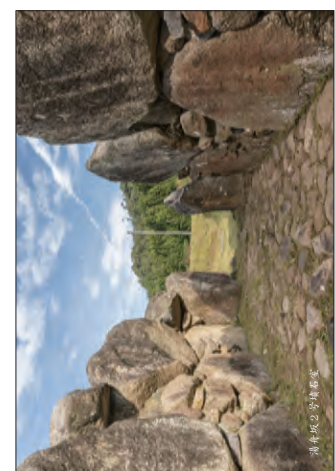
裏③(第1弾)



裏④(第2弾)



裏⑤(第2弾)



裏⑥(第2弾)

資料2

グッズ名：写真パネル展解説チラシ

制作年：2021年度

制作数：1,000部

内容：ACTR 成果報告会会場で開催した写真パネル展の解説チラシ。

サイズ：A4

表面には、写真パネル展のタイトル・環頭大刀や銅鏡を大きく配置し、湯舟坂プロジェクトの趣旨や湯舟坂2号墳周辺の地図も掲載。裏面は各写真の解説文を記載。

こだわり：全体のデザインは、岸本卓也（素組アート）氏デザインのACTR 成果報告会の表紙を参考にした。各解説は、一般の方々でも理解が出来るよう、難解な文章は避け、分かりやすくおもしろい文章になるよう心がけた。

活用事例：2021年度 ACTR 成果報告会で来場者に配布。

(吉永健人)

写真でみる
湯舟坂2号墳

40年の時を経て、再び輝きを放つ

1400年の時を経て—
湯舟坂2号墳の蒼掘

湯舟坂2号墳は京丹後市久美浜町須田区にある、古墳時代後期(6世紀後半)につくられた円墳です。1981年(昭和56)に発掘調査が行われ、多彩な副葬品が出土しました。丹後半島でも最大級の石室や豊富な副葬品から、須田古墳群の中でも最も有かな古墳の一つであると考えられています。

40年の時を経て—
湯舟坂2号墳プロジェクト

京浜東北大学では2020年度地域貢献型特別研究(ACTR)の一環として湯舟坂2号墳の発掘計・活用を行いました。発掘当時の記録や記録を掘り起こすと同時に、高精細デジタル写真の撮影や三次元計測など最新の技術を駆使し、湯舟坂2号墳の新たな魅力をひきました。現在、京丹後市、地元須田区などと一緒に今後の活用のあり方を模索中です。

湯舟坂2号墳の位置

湯舟坂2号墳

須田古墳群

久美浜町

京丹後市

湯舟坂2号墳

湯舟坂2号墳

湯舟坂2号墳

文化財写真を専門とする**環山雅夫氏**(奈良文化財研究所)がカメラを手に取り、湯舟坂2号墳を撮る。藍のギザギザ、銅鏡の鮮やかなグリーン、空からの石室…40年前には見ることの出来なかった姿となり、デジタル高精細写真となって生まれ変わる。

時間、方角、条件を整え、**いざシャッター**を切る

シャッターを切るのは一瞬だが、撮るまでには多くの苦労がある。太陽の光の向き、道路の見え方など、取り巻く環境を全てはじめて徹底して写真を撮る事ができる。

石室内を駆け回り撮る。そして**3D**に

須田平野古墳では学生たち自ら写真撮影。撮った写真は約1800枚。少しずつ移動して石室内を隅々まで撮影し、壁の隅の部分や天井部分は念入り。二次元の写真が三次元モデルへと変身する。

副葬品が勢揃い **完璧なフォーメーション**

石室から出してきた副葬品の代表選手を並べて記念撮影。写真技師の環山さんがこだわり抜いた配置。環頭大刀がセンターを飾り、周りは引き立てながら華麗に決まっている。

ウマを彫った、白くかがやく馬具

ウマの身体をかざった馬具の裏面には、よく見るとうすらせみ隠れが、これは採掘時に加工された、イモガイという貝の細面の磨削だ。磨きの跡から明らかになった馬具は、白くかがやいていたに違いない。

SEM/MVS(Structure from Motion/Multi view stereo)って?

複数の視点の写真から被写体の形状・構造を復元し、三次元モデルを作成する技術です。対象となるものを様々な角度から撮影した写真をパソコンで処理すると、その写真間の共通部分を自動で認識して、写真間の三次元位置関係を算出する。3Dモデルの作成が可能になります。白く光るようになった写真の撮影がここから始まります。素晴らしいカメラだけでなく、実はカメラの写真でもできちゃう。

撮影日時 2021年7月24日

編集・発行 京都府立大学文学部考古学研究室
京都府立大学文学部1-1-5

作 成 土井雅也・宇田隆一・吉永健人
京都府立大学文学部考古学研究室

協 力 京丹後市教育委員会
京丹後市久美浜町須田区
須田古墳群発掘調査実施委員会
環山雅夫(奈良文化財研究所)
環山雅夫(素組アート)

本資料には2020年度京都府立大学ACTR「発掘作業における文化遺産の地域活性化に関する総合的研究」(研究代表: 環山雅夫)および2021年度ACTR「発掘・整備に向けた発掘調査の地域活性化に関する総合的研究」(研究代表: 吉永健人)の成果の一部をまとめた。

資料3

制作物名：須田平野古墳解説看板

制作年：2021年度

制作数：1

内容：須田平野古墳へと続く遊歩道入り口に設置されていた、既存の看板（旧高龍中学校制作）の老朽化にともない新調。内容は学生を中心に考案・編集。解説板の外枠や支脚は岸本氏による設計。

プロジェクトの概要や須田平野古墳の説明、石室の写真、須田区周辺の地図を掲載。地図は須田平野古墳を含む伯耆谷の古墳や主要スポットをプロットして作成。

外枠や背面の板材は、地元の方々の協力のもとで加工し、組み合わせた。木材部には防腐剤を塗布。

こだわり：古墳の説明だけでなく、地域の中での須田平野古墳の位置づけやプロジェクトの活動も知ってもらえるような内容にした。一般の方々にも須田の文化遺産にかかわるスポットを知ってもらえるような地図を作成した。

活用事例：遊歩道入り口に設置。 (吉永健人)



資料4

グッズ名：湯舟坂オリジナルクリアファイル

制作年：2022年度

制作数：500部

内容：環頭大刀をメインモチーフに、栗山氏撮影の写真と金宇大氏（滋賀県立大学）作成の実測図を組み合わせ配置したクリアファイル。

表面背景には湯舟坂2号墳石室の遺物出土状況図（報告書より）を使用。中央に環頭部分の高精細写真（左半分）と実測図（右半分）を組み合わせ配置。

裏面は刀身部分の高精細写真・実測図を斜めに並べて配置。

レイアウトした環頭大刀はいずれも等倍スケール。

サイズ：A4

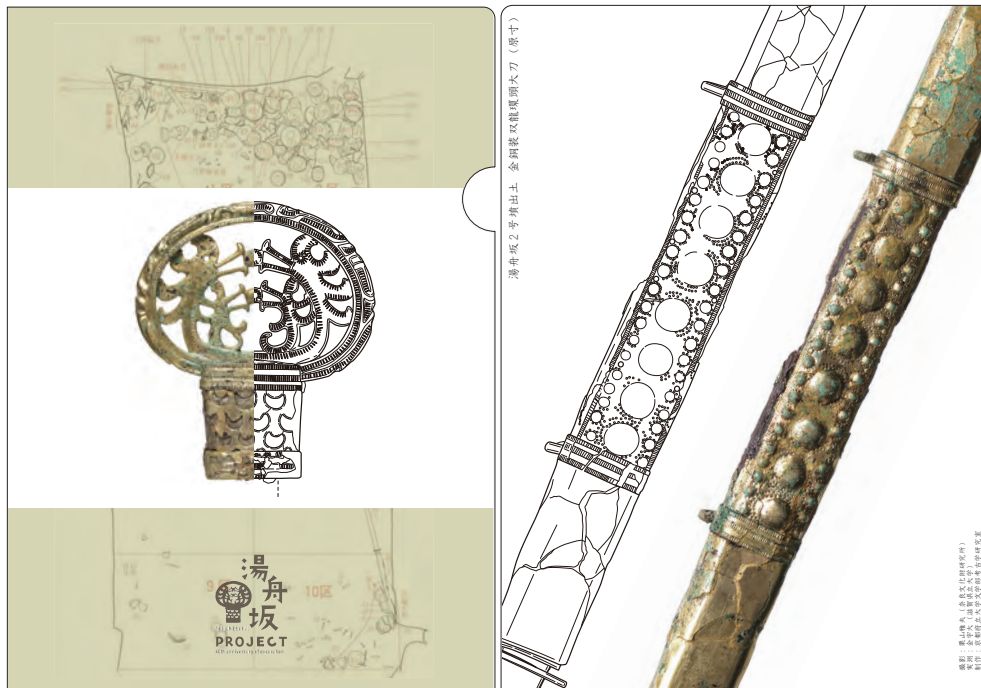
こだわり：湯舟坂プロジェクトの最新成果である高精細写真と実測図、それぞれから引き出せる情報を見比べられるように並べて配置し、インパクトのあるデザインにした。

活用事例：2022年度ACTR成果報告会でアンケート回答者に配布。

高龍小学校生徒に配布。

須田区全戸に配布。

（吉永健人）



資料5

グッズ名：須田区古墳 MAP

制作年：2022年度

制作数：1,000部

内容：須田平野古墳解説板を制作した際の地図を改良し、伯耆谷周辺の古墳の分布を示した。古墳以外にも歴史に関わるスポットの説明を付け、須田区の遺跡を巡る際のガイドとして作成した。

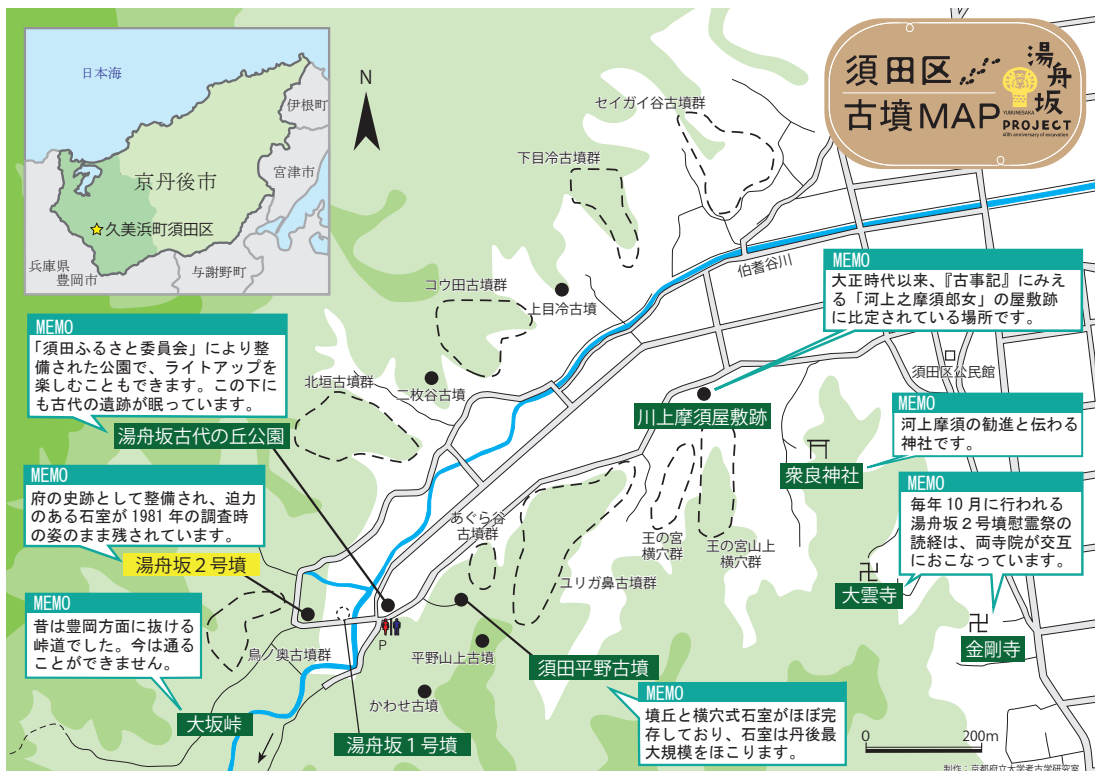
サイズ：A4

こだわり：須田区周辺の文化遺産が一覧できるマップにした。一般の人々にも興味を持ってもらえるような文章やデザインを目指した。

活用事例：2022年度 ACTR 成果報告会にて、アンケート回答者に配布。
高龍小学校の生徒に配布。

須田区全戸に配布。

(守田悠)



資料6

グッズ名：湯舟坂オリジナルポロシャツ

制作年：2022～2024年度

制作数：約200

内容：湯舟坂2号墳出土の金銅装双龍環頭大刀をモチーフにしたポロシャツ。正面には岸本氏作成のロゴを、背面には湯舟坂2号墳出土の金銅装双龍環頭大刀の龍の形に沿って「湯舟坂」の文字をデザインしたものをレイアウトした。「湯舟坂」の文字と丹後の海の波を表現している。

カラー：ロイヤルブルー（2022年度）

バーガンディ・ミントグリーン（2023年度）

こだわり：プロジェクトのロゴ、環頭大刀の龍、丹後の海を表す青など、当プロジェクトをアピールできるデザインとした。各イベントで関係者が着用することで、宣伝力に繋がるほか、プロジェクトの一体感が醸成できるユニフォームとなっている。

活用事例：プロジェクト関係者が各イベントで着用。

(ACTR 成果報告会・須田平野古墳調査・高龍小学校連携プログラム 等) (山内愛弓)



資料7

グッズ名：湯舟坂オリジナルしおり・解説シート

制作年：2023年度

制作数：各300部

内容：湯舟坂2号墳出土の遺物をモチーフに制作した3種のしおりと、それぞれのしおりの解説を記載したシート。

A：金銅装双龍環頭大刀をモチーフとし、栗山氏撮影の高精細写真と金氏作成の実測図を表裏に組み合わせたデザイン（140×35mm）。

B：最初の数回の埋葬に伴う須恵器を表に、追葬時に副葬された須恵器を裏に配置したデザイン（148×50mm）。

C：デフォルメイラスト化した湯舟坂2号墳出土遺物を配置したデザイン。裏面には湯舟坂プロジェクトのロゴを配置（148×50mm）。

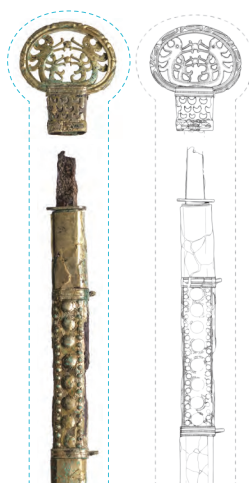
解説シートには各しおりの遺物やコンセプトの説明を記載。

こだわり：Aは大刀の形に沿って型抜きにした。紙質にもこだわり、特にBは高級感が出るような紙質を選択した。しおりとして使ってもらうだけでなく、解説シートを読むことで、文化遺産への学びにつながるよう意図した。

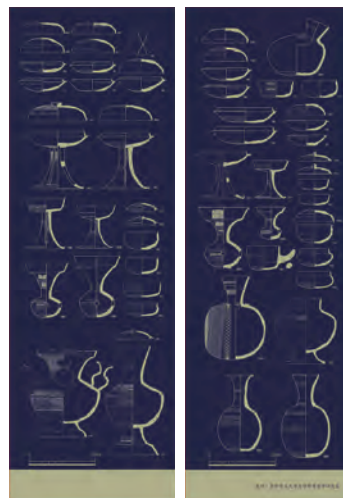
活用事例：2023年度CTR成果報告会でアンケート回答者に配布。

須田区全戸に配布。

(山内愛弓)



しおりA

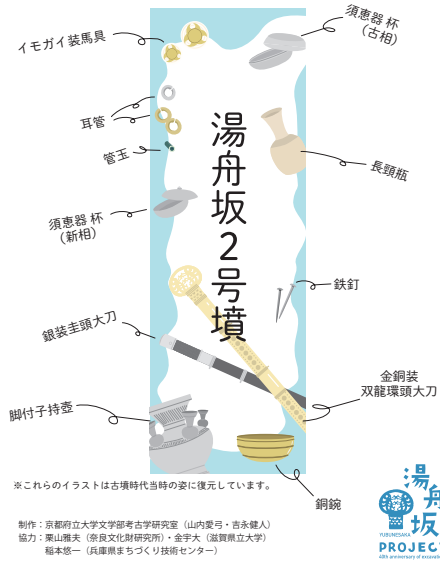


しおりB



しおりC

湯舟坂 2号墳出土 遺物



湯舟坂 2号墳出土 金銅装双龍環頭大刀

本プロジェクトでは、湯舟坂 2号墳の遺物や石室の新たな写真を撮影しました。栗山雅夫氏（奈良文化財研究所）によって撮影された環頭大刀の高精細写真は、細かく刻まれたタガネの痕も写し出し、実物の10倍サイズでもプリント可能。より細かな研究につながるとともに、文化遺産活用の幅がさらに広がります。

金宇大氏（滋賀県立大学）によって環頭大刀の新たな実測図が作成されました。実物の徹底的な観察のもと、細かな痕跡や、断面情報、部材構成などが詳細に表現されています。通常は観察が難しい部分も図化され、環頭大刀の多くの情報が引き出されたことにより、正確かつ詳細な遺物の検討が可能になります。

※しおりの環頭大刀は実物の1/4のサイズです。

柄頭に大小2対の龍があしらわれた環頭大刀。古墳時代後期には、このような装飾された大刀が首長の力を示すアイテム（威信財）として副葬されました。かつて須田の地にいた首長が大きな力を持ったことを物語っています。

湯舟坂 2号墳出土 須恵器

奥壁付近で出土した須恵器。最初の数回の埋葬に伴うもので、のちの追葬の際に奥壁側に片付けられたようです。

奥壁付近で出土した須恵器。高杯や、宝珠つまみの付く蓋のほか、水瓶を模した長頸壺も出現しています。

湯舟坂 2号墳で出土した多様なうつわを整理してみると、いくつかのグループに分けることができます。奥壁近くの古い時期のうつわと、奥壁部近くの新しい時期のうつわなど、湯舟坂 2号墳では追葬が何度も繰り返されていたようです。

資料8

グッズ名：湯舟坂オリジナル野帳

制作年：2023年度

制作数：100部

内容：須田平野古墳発掘調査に合わせて制作したオリジナル野帳。

地元の小学生が使用できるような内容を目指した。

表紙：湯舟坂プロジェクトのロゴマークを箔押し

見返し①：久美浜町内のフィールドマップ

見返し②：古墳探検のポイント

見返し③：身体を使った長さの測り方

見返し④：湯舟坂プロジェクトの紹介

見返し部分はシールタイプに印刷したものを野帳に貼付け。

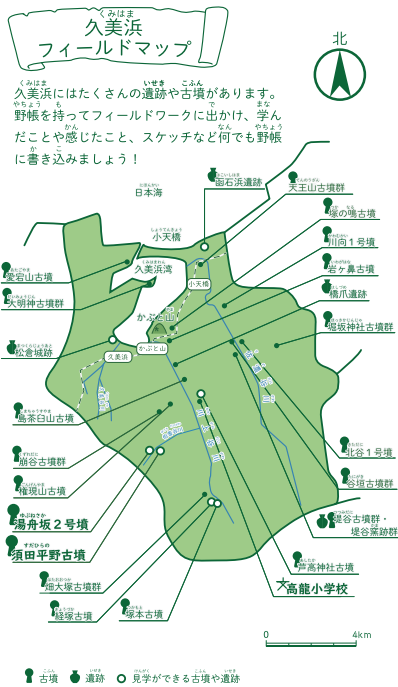
こだわり：随所に記入欄を設けており、小学生が自らの足で遺跡を探索し、野帳を活用していくことで自分だけの野帳に進化していく内容とした。

活用事例：高龍小学校生徒に配布。

(山内愛弓)

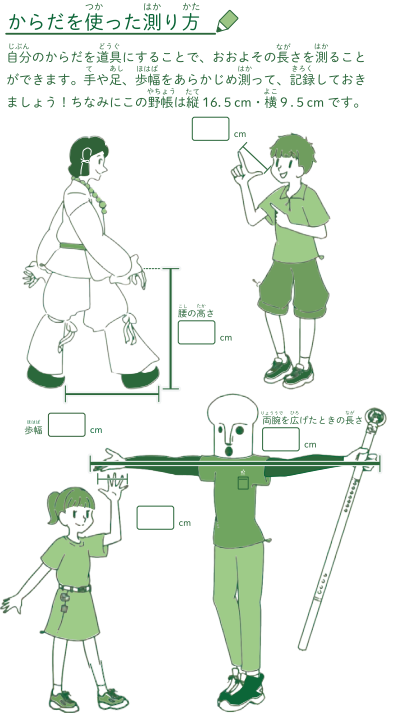


表紙



マップにない古墳や遺跡もたくさんあります。見つけたら自分で書き込んでみましょう！

見返し①



見返し③

古墳探検に行こう

持ち物・服装

- 動きやすい服装 (ズボン)
- はきなれた靴
- ぼうし
- タオル
- 軍手
- 雨具
- 飲み物
- 地図
- ライト (古墳の中は暗いよ)
- 虫除け (夏は特に)

古墳に行く時に気をつけること

- 山の上など、危ない場所にある古墳に行く時は足元に気を付けよう。
- 古墳は昔の人のお墓です。きずつけず、大切にね。

古墳探検ではここに注目!

古墳の形
どんな形をしているかな?
前 円墳 方墳 前方後円墳

古墳の大きさ
どれくらいの大きさ? 実際に古墳のまわりを歩いてみよう!

古墳の場所
古墳はどんな場所に
あるかな?
例: 川の近く、山の上

土色
古墳の上からは
どんな景色が
見えるかな?

自分のからだを使った長さの測り方は裏表紙へ▶

見返し②

湯舟坂プロジェクトとは...

- 湯舟坂2号墳は、今からおよそ1400年前、古墳時代の終わりに京丹後市久美浜町須田に造られた古墳です。
- 古墳とは、古墳時代に力を持っていた人物のお墓のことです。
- 湯舟坂2号墳は1981年に発掘され、大きな石室(石でつくられた部屋)やたくさんの副葬品(亡くなった人へのおもなえもの)が見つかりました。
- その豪華さは、当時この地域を支配していた人物の力の大きさを示しています。

● 湯舟坂プロジェクトでは、湯舟坂2号墳をもう一度見つめ、地域の「お宝」として生かせるよう、大学・市・地元が一体となって取り組んでいます。

● みんなももういちど調査・研究して一緒に「地域のお宝」を未来に伝えよう!

湯舟坂2号墳で出土した黄金の大刀(金銅装双龍環頭大刀)の頭にある飾りの部分です。これらの出土品やレプリカは京都府立丹後郷土資料館や京丹後市立丹後古代の里資料館で見ることができます。

連絡先:
住所:
名前:
使用期間: 年 月 日 ~ 年 月 日

制作年: 2023年9月
制作: 京都府立大学文学部考古学研究室
協力: 京丹後市教育委員会
湯舟坂 PROJECT ロゴデザイン: 素組アート

見返し④

資料9

取り組み名：高龍小学校との連携授業（つなプロ）

実施年：2022年度

取り組み内容：京都府ミュージアムフォーラムが取り組む「つなプロ」（正式名称：次世代と地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト）の京丹後モデルとして高龍小学校が選ばれたことにあわせ、湯舟坂プロジェクトも高龍小との連携授業を実施。

5年生を対象に、地域の宝物を再発見し、その魅力を次世代に「つなぐ」ことがコンセプト。

（以下当学生が参加した取り組み）

- ・顔合わせ（7月12日）：高龍小学校にて、小学生と当学生が直接顔を合わせ、今後の取り組みについて説明。
- ・事前授業（9月22日）：小学校を訪問し、当プロジェクトの紹介や、湯舟坂2号墳や須田平野古墳についての基礎知識について、クイズや寸劇を交えながら説明。
- ・古墳ツアー（9月26日）：湯舟坂2号墳・須田平野古墳・湯舟坂古代の丘公園をめぐるツアーを企画・運営。湯舟坂古代の丘公園を拠点に、2班に分かれ、各古墳をゲーム方式で巡る。各スポットでは古墳に関するクイズを出題、また当時おこなっていた須田平野古墳の測量調査にあわせ、見学や測量体験も実施。
- ・RyuTuberの動画撮影（11月28日）：小学生が「RyuTuber」となって、古墳の魅力を発信する動画を制作。当学生も撮影の補助をおこなった。
- ・パンフレット AtoZの作成準備（1月20日）：高龍小学校にて、つなプロ公式のパンフレットである「AtoZ」の内容を小学生とともに検討。
- ・つなプロ発表会（12月29日）：京丹後市役所久美浜庁舎にて、小学生がこれまでの取り組みの成果をお披露目。

成果物：・つなプロ公式パンフレット『高龍 AtoZ』

・つなプロ公式 HP

(<https://museumforum.pref.kyoto.lg.jp/tsunapro/1497/>)

（吉永健人）

資料 10

取り組み名：高龍小学校との連携授業（つなプロ後）

実施年：2023 年度

取り組み内容：前年度同様、高龍小学校 5 年生をを対象に、湯舟坂 2 号墳・須田平野古墳をはじめとする地元の文化遺産の魅力に触れてもらうことを目的とする連携授業を須田平野古墳の発掘調査期間に実施した。

- ・事前授業（9月 21 日）：クイズなどを交えながら古墳に関する基礎知識や久美浜町や須田区の文化遺産について説明。オリジナル野帳を配布。

- ・古墳ツアー（9月 25 日）：校外学習として、湯舟坂 2 号墳・湯舟坂古代の丘公園・須田平野古墳を案内。古代の丘公園を起点に、いくつかの班に分けて各古墳を回った。各スポットではクイズやゲーム、発掘体験などのコーナーを設けた。

- ・事後授業（12月 6 日）：発掘調査の成果を紹介。出土土器を実際に触れてもらった。

（越川輝）



2022 年度高龍小学校 5 年生
との記念写真



2023 年度高龍小学校 5 年生
との記念写真

編集後記

2020年に始まる「湯舟坂プロジェクト」は早くも6年目に突入している。教員生活のほとんどを久美浜に捧げてきたといえば大げさだが、府大に着任したのが2018年なので、私だけでなくたくさんの教え子がそれまで縁もゆかりもなかった久美浜に足繁く通ったことは確かである。3回分の成果報告会資料集をまとめて一書にしようと、気軽な気持ちで本書の制作を思い至ったが、皆さんお忙しく、思いのほか難産だった。スケジュールに追われる中、献身的に編集作業を手伝ってくれた二人の大学院生には感謝してもしきれない。

なお、湯舟坂プロジェクト立ち上げ時から一緒に仕事をしてきた、菱田哲郎先生が今年度でご退職される。まだ隣の研究室には山積みの荷物があるので実感がわからないが、1994年に開設した府大考古にとって最大の岐路であり、寂しい限りである。様々な仕事を通じて文化遺産の地域資源化の重要性を教えていただいた学恩に感謝するとともに、兵庫県と接する久美浜にこれからも足繁くお越しいただければと思う。(い)

表紙写真

- 上左 双龍環頭大刀調査風景（諫早直人撮影）
上中 第2回 ACTR 成果報告会風景（栗山雅夫撮影）
上右 「つなプロ」風景（諫早直人撮影）
下 湯舟坂2号墳出土双龍環頭大刀（栗山雅夫撮影）
裏表紙写真 湯舟坂2号墳全景（南西から。栗山雅夫撮影）



京都府立大学文化遺産叢書 第33集

地域資源としての湯舟坂2号墳

編集 諫早直人（京都府立大学文学部准教授）
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5
<https://kpu-his.jp/>
発行日 2025年3月6日
印刷 北斗プリント
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2